

テキストデータの作り方について②

②ではWordおよびテキスト形式(プレーンテキスト)での入稿について説明します。

■Wordでの入稿

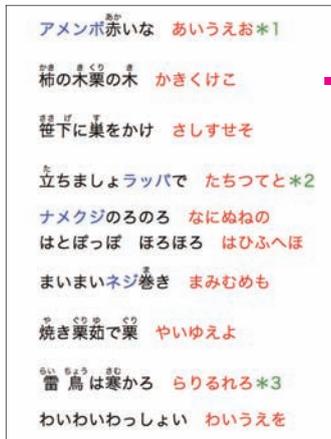
組版をInDesignで行うのであれば、InDesignのバージョンにかかわらず、Wordで作成したテキストの入稿が望ましいです。

InDesignではWordのスタイルやルビ、下線などを取り込めるため、Word上であらかじめルビ、下線、上付き文字、下付き文字といった設定しておく、InDesignへの流し込みの際に大幅な効率化が図れるようになります(詳しくはMeisho-do Creative Report Vol.1参照)。

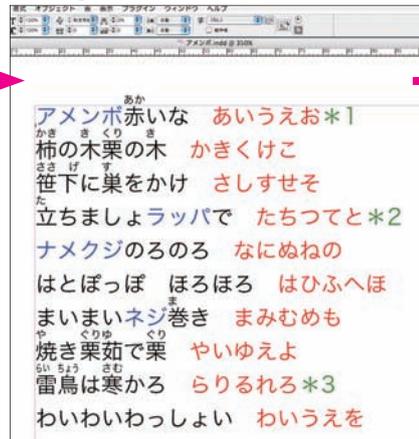
Wordのスタイルがよくわからないという場合は、

文字カラーで区別をつけるという方法もあります。例えば、「赤→太字」、「青→下線」、「紫→太字+下線」、「緑→上付き文字」というようにルールを決め、Word上で色を付けていきます。これをInDesignで取り込み、文字カラーで検索をかけ、それぞれに正しいスタイルを適用していきます。この方法を使う際に気を付けなければいけないのは、必ず「フォントの色」で色をつけるということです。Wordには「蛍光ペン」という機能がありますが、InDesignには「蛍光ペン」を再現する機能がないため、取り込んだときに「蛍光ペン」の情報が全て破棄されてしまいます。

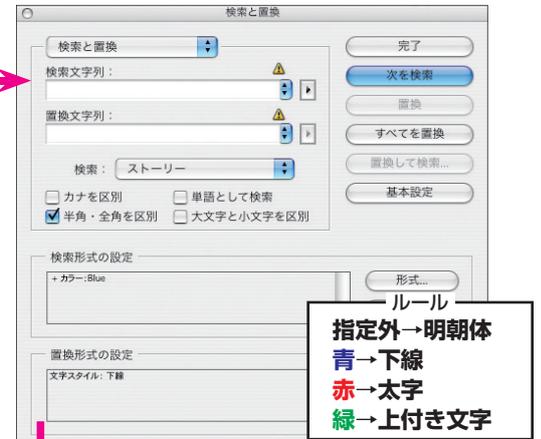
Wordのテキスト



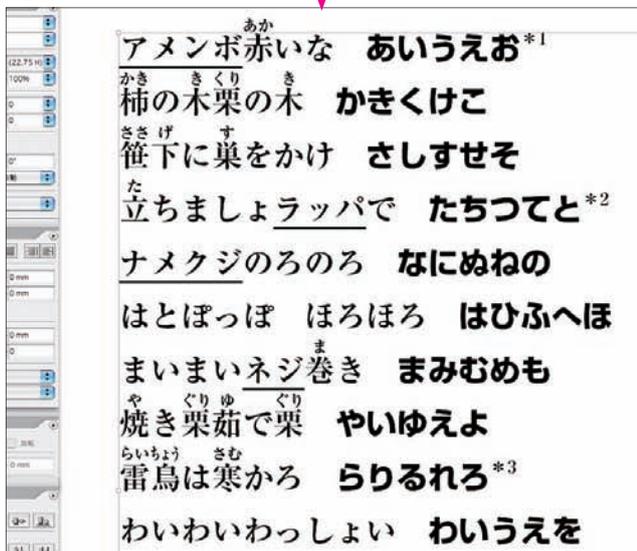
InDesignで取り込んだ状態



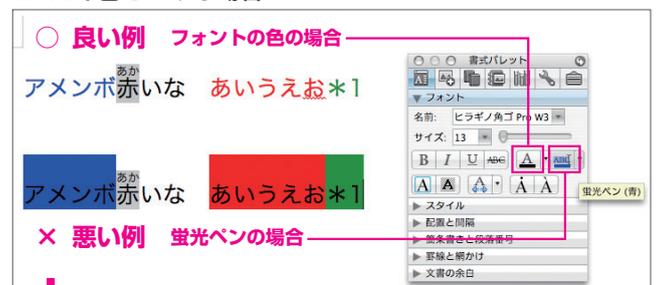
ルールに合わせて検索&置換



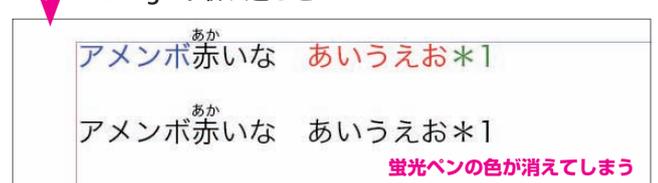
完成



Wordで色をつける場合



InDesignで取り込むと...

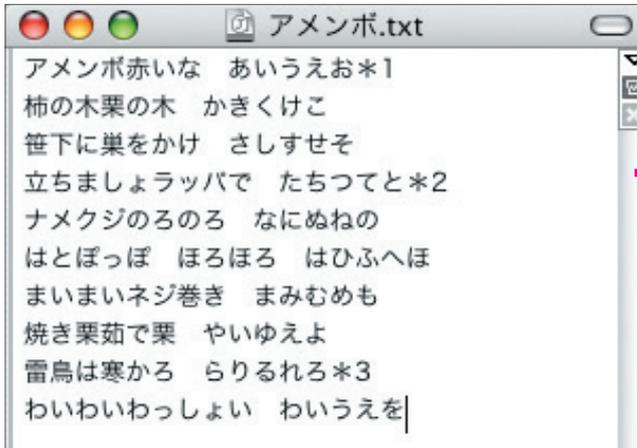


■テキスト(プレーンテキスト)での入稿

プレーンテキストでの入稿の場合には、目印となるマークを入れていただくことで、Wordの場合とは違った方法がとれます。

前ページの文章を例にすると、太字にしたい文字の前に☆、後ろに★をつけます。同様に下線を引きたい文字の前に◇、後ろに◆、上付き文字にしたい文字の前に○、後ろに●というように目印をつけていきます。ルビを入れたい場合は、「#赤#あか#」のように、親文字とルビをそれぞれ#で区切ります。

テキスト

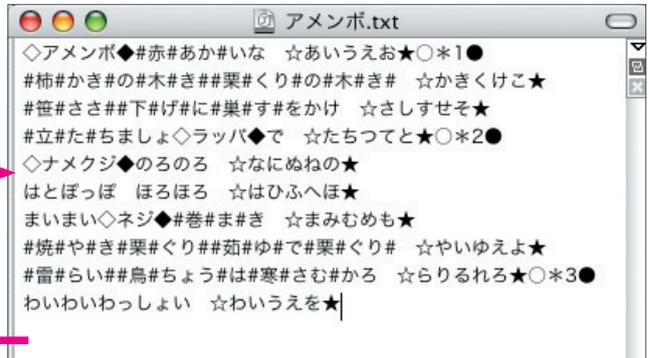


注意点としては、①★～★、●～●のように同じ記号で囲まないこと、②テキスト中で使用される記号を使わないことです。

加工する文字の前の記号を「開始タグ」に、後ろを「終了タグ」に変換するため、①のように同じ記号で囲まれると文字の前後が同じタグになってしまい、InDesignでうまく取り込めません。

②はタグ変換の際に、必要な文字までタグに変換されてしまうからで、これは文字飛びの原因になります。

記号を入れる



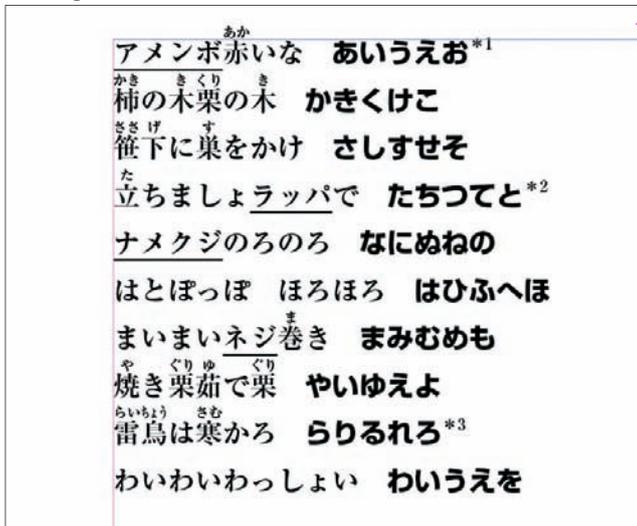
記号をタグに変換



タグ入りテキストが完成



InDesignで取り込む



テキストを入稿する際に、作業の内容や、使用するアプリケーションを理解したうえで、最適なデータ形式を選択する。そうすることによって、ワークフロー全体が円滑に進み、コスト削減になり、より良い品質のものを作り上げることにつながると当社では考えています。